

ダイヨウセセリ



我が家の庭にはオニドコロとヤマイモ(自然薯)のツルが伸び放題になっています。べつに食べるつもりがあるわけではなく、ダイヨウセセリの幼虫が食べる食草だから大事にしています。他のチョウの食草であるカラムシ、コアカソ等の雑草も伸び放題の「世話要らずの庭」です。

7月19日、トコロの葉を二枚重ねた光景が目にとまりました。中を覗くと案の定ダイヨウセセリが、それも既に幼虫のときを過ぎサナギになって入っていました。我が家ではありふれた光景です。



翌日の朝、(伊豆市と静岡県主催の)「萬城の滝いきものふれあい観察会」にでかける前にトコロの葉に目をやると、ラッキーにも羽化をしたばかりのダイヨウセセリが巣につかまっています。羽化の瞬間を見るのもラッキーですが、裏翅を見ることのないダイヨウセセリの裏翅を見たのがさらにラッキーなのです。標本ならいざしらず、自然体はいつも翅を開いて止まっているので裏の模様を見るできません。羽化体は時間が経つと翅を開いてしまいましたが最初はしっかりと閉じていました。



ダイヨウセセリは我が家の庭で毎年世代交代を繰り返しているようです。前回はトコロの葉で育った秋の幼虫を見ました。寒さと共に葉が枯れて、そのうちに地上の植木鉢に葉と共に落下しました。冬には雪の下となり、春に枯葉の巣は再び現れましたが巣には穴が開いていて、抜け出してサナギになったのか、強盗にあったのか分かりません。